

みのかも定住自立圏 首長・ビジョン懇談会委員意見交換会

議事録

令和2年11月18日(水) 10時00分～11時00分

美濃加茂市生涯学習センター201集会室

出席者：

定住自立圏ビジョン懇談会委員

加藤 慎康委員	薬袋 淳子委員	澁澤 寿一委員
松本 幸正委員	クリス・グレン委員	

※欠席：栗田 暢之委員

みのかも定住自立圏首長

伊藤 誠一 美濃加茂市長	柴山 佳也 坂祝町長
板津 徳次 富加町長	佐藤 光宏 川辺町長
井戸 敬二 七宗町長	金子 政則 八百津町長
横家 敏昭 白川町長	今井 俊郎 東白川村長

圏域担当者

坂祝町企画課長	坂祝町定住担当	富加町	富加町定住担当	川辺町
川辺町定住担当	七宗町企画課長	七宗町定住担当	八百津町定住担当	白川町企画課長
白川町定住担当	東白川村総務課長	東白川村定住担当		

事務局

事務局長 山田 尚樹	室長 久保田 芳典
課長補佐 村井 泰史	主任主査 中林 健

議事録作成：酒向真実（地域振興課地域政策係）

10:00～ 開会あいさつ

美濃加茂市長 おはようございます。

3次ビジョンについて、コロナ禍において、緊張する中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

これまで様々な事業を取り組むことができました。重ねてお礼を申し上げたいと思います。

こういうコロナの時、これまで様々に長年一生懸命計画をしてきた事業、イベントを苦渋の選択だと思いますが、やれなかった、これからもやれない中で、厳しい判断を毎日求められております。ただ、そういう時期であるからこそ、その次の時代20、30年先のこの地域のためのビジョン、具体的な事業を今こそやらなければいけないと私は思っております。皆様方も同じ気持ちであるし、委員の皆様も同等の気持ちでいていただけたらと思っておりますので、力を合わせてこの地域を盛り上げていきたいと思っております。コロナによって、人の命を守らなければいけないのは大前提であります。この地域の自治体の命、これも同様に守っていかなければいけない。バランス感覚をしっかりとって、これからの事業を展開してまいりたい。どうぞよろしくお願いいたします。

10:05～ みのかも定住自立圏第3次共生ビジョンについて報告
(美濃加茂市地域振興課長)

久保田課長 おはようございます。

みのかも定住自立圏3次共生ビジョンの状況をご説明させていただきます。最初に、コロナウイルスで、このタイミングに初めての意見交換会開催となりましたことを、この場を借りてお詫び申し上げます。

本来であれば、首長の皆様、委員の皆様を一堂に会して意見を聞きながら、ビジョン案を作成するのが本来でございますが、コロナの影響により、個別の聞き取りでここまでできました。

また、今回ビジョンの作成に伴う、パブリックコメントは全て実施を終えております。またこの上で、本日の意見交換会という運びでしたが、今後は各

自治体での、協定書締結の議決、或いは来年度予算の策定、それを経て来年4月より第3次ビジョンが開始となります。

ここで改めて定住自立圏のご説明をさせていただきます。少子高齢化、人口減少が進む中で、各自治体が、或いはこの圏域がどのように生き残っていくかというのが、このみのかも定住自立圏の目的であります。圏域全体で取り組むことでスケールメリットを活かしながら、効果的、効率的に進めていくことができると考えております。また今回の3次ビジョンでは、圏域の50年100年後の土台作りというテーマに沿って進めてまいります。3次ビジョンでは5本の柱をテーマにしております。「健康」「未来のヒトづくり」「公共交通」「防災」「外国人定住」を重点分野として位置付けております。重点事業につきましては、お手元に配布しておりますので、詳細については割愛させていただきます。本日の意見交換会では、今まで開催できなかったため、委員さんよりご指摘もいただいておりますので、それを踏まえ、意見を賜りたいと思っております。意見をいただきながら、今後の3次ビジョンのあり方についてお話いただければ思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。また本日は時間も限られておりますので、早速進行をお願いしたいと思います。

10:10～ 意見交換

加藤委員 おはようございます。第3次共生ビジョン案ができてきて、意見交換ということですので、よろしくお願い申し上げます。クリスさん、元気ですか。聞こえますか。

クリス委員 よろしく申し上げます。

加藤委員 まずは、「住ミツヅケタイ、住ンデミタイマチ、みのかも定住自立圏」ということで、今回の将来像をお作りいただきました。その中で、今回の第3次ビジョンは、8ページにあるように、圏域にとって始めなければならない足腰の土台となる部分を重点的にしようということで、5つのテーマで進めていただいております。今回重点分野は「健康」「未来のヒトづくり」「公共交通」、「防災」「外国人定住」、栗田委員は残念ながら所用でお休みです。委員の方、町村の皆様にご意見賜りたいと思っております。よろしくお願いいたしま

す。

まず「健康」分野ということで、生きがいを持ち、充実した生活を送ることで生涯にわたり『私は健康です』と言えるようにする、といことで進めていきます。実際の事業は、健康データ分析事業、24時間電話相談、ウォーキング事業。美濃加茂市は、Walkable City ということで総合計画にも書かれておりますが、かもけんウォーキング事業ということです。また、この健康に関して言うと、公共交通との関連などもありますので、そのあたりもご意見を賜ればと思います。

薬袋委員

おはようございます。しばらく時間が空きましたけれども、担当の方といろいろ話を進めてきました。ここに記載されてありますように、どの世代にとっても充実した生活を送る、そのためには、「自分は健康だよ」と言える、それが一番重要なのです。主観的健康観といいます。見た目では、非常に身体が不自由にみえても、メンタルが落ちていても、自分自身が「健康だよ」と言えることを基本にして、いろいろ政策を立てて進めております。そのために計画書がこちらに載っておりますけれども、まずは各市町村が保健師さんを中心にいろいろ調査をなさってきたデータが分析できていないということがございます。データ分析に限界はありますけれども、市町村の規模に限らず、どれだけ戸数が少なくとも多くとも、そこに見合った分析が統合していきますと、市町村で、何が課題か、何が効果的だったか、いろいろなことがデータでつながり、そのの一步を踏み出していきたい。微力ですがけれども、私自身も統計をやっております、できたら保健師さん、事務の方も数字が好きだよという方と共にまとめを行っていきたくて思っております。それから、ウォーキングのこと、24時間電話のこと、この町に住んでいて、どうしたら安全に安楽に、やっぱりここがいいなと思っていただいて、人間生きていることが第一ですので、生きている中で如何に自分自身が健やかに過ごせるように、こういうテーマを網羅して、この限られた達成年度の中で到達できるように進めてまいりたいと思います。これから各市町村からご意見をいただきながら、少しずつ進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

加藤委員

ありがとうございます。特に「健康」ということで、中心市の美濃加茂市はかなり力を入れられておりますが、伊藤市長。

美濃加茂市長 まさしく先生がおっしゃたように、気持ちが健康であるという住民の方を作っていきたいと思っております。それと同時に先生がおっしゃったとおり、科学的なデータ、根拠を明確にしながら、精神的な健康は必要ですけれども、やはり物理的な健康が必要なので、「あなた健康だね、いいね、だけれども、これをやらなければいけないね。」地域性の問題、最終的には、国保会計上の医療費の削減に繋げていきたい。分析データを元に集中的に投資をして、そういったものに対する効果を上げていきたい。そう考えております。よろしく願いいたします。

加藤委員 ありがとうございます。

東白川村長 「健康」分野で最近思ったことは、大変苦しい話になりますが、ここのところ3人自殺がありました。村外から来て、たまたま東白川で。あと2人は病気を苦しめてということだと思っております。ここの事業の中で、24時間電話相談事業が入っていますので、実施にあたっては、圏域にあたっては自殺が多くなってきているのは社会現象。東白川村の3人は、すごい率なのです。これまでも一人暮らしの方が多いこともあって、孤独死や、見守り、訪問する事業をやっているのですが、村だからできることもある。電話相談、特に若い人たちの心の病、役場の職員もメンタルチェックをやっていても厳しい人もある。体の健康も大事、大前提なのですが、心の健康、これはナイーブな話なので、事業でどうだこうだというのは難しいとは思いますが、この事業で言うと相談窓口、これを充実してほしいなと思います。

加藤委員 ありがとうございます。もしよければ、他の委員さん、市町村長さんはありますか、相談事業について。自殺の問題、特に若者は未来のヒトづくりの方でお話をしたいと思っておりますが、ご意見ございますでしょうか。

松本委員 前にもお話させてもらったのですが、健康データの分析は、ぜひ公共交通と絡めてもらいたいのです。特に、免許返納後。免許返納後に交通手段があるかないかで、健康状態がどう変わるか。或いはライフスタイルがどう変わるか。私のイメージでは、免許返納後も交通手段があれば、出歩いて心と身体健康維持ができる。使える交通手段がないと、引きこもって身体も心も弱ってしまう、そういうことはあり得るのではないかと思うので、分析していただいて、実は、公共交通は、お年寄りの方に健康長寿を支えていくんだよとデータでみせてもらえると有難い。それから、かもけんウォーキング事業

は、公共交通で来れることのルートを設定するとともに案内してほしい。

加藤委員 ありがとうございます。ちなみに、ウォーキングの話がありました、美濃加茂市はウォーキングアプリを取り入れました。他の自治体は、健康促進で何かアプリを入れられている自治体さんはありますか。

川辺町長 アプリまではやっていないのですが、トレッキングコースの開発ということで、県から森林環境税をいただいているので、それを活用して4つくらいの山にトレッキングコースを整備いたしました。川辺町の象徴的な山、米田富士、八坂山、遠見山、鬼飛山。今まで獣道のような登山道があったのですが、人が登れるような形に整えてきましたので、それを目当てに来町する方が少しずつ増えています。

美濃加茂市長 無料のアプリ『aruku&』を携帯に入れています。職員の方と連携をして200人ほど。これからまた増えていくと思う。競争をやっています。下から何番目なので、とにかく負けないように、今日は朝家から歩いてきました。爽やかで気持ちがいいですね、歩いて来ると。(スマホを見せて) これなのです。部長さんのです。首長さんとぜひ勝負いただきたい。無料アプリです。これを入れておくと、いろんな自治体と競争できるようになっている。こういったもので、自分自身もやるだけけれども、隣の人と競争できる。バスで行って、お互いに見せ合うだとか『aruku&』を。そういった科学的なものを使って楽しみながらやればと。ぜひ『aruku&』と、宣伝になってはいけません。無料なので、やればと思います。

加藤委員 ありがとうございます。実は、チーム単位で入って、私も会社で入りました。市役所のみなさんめちゃくちゃ歩いています。課ごとによって入っていません。

美濃加茂市長 10人以上でグループを作って。いろいろと応募できるのです。いいのかどうかわかりませんが、当たったりするのがおもしろい。

加藤委員 コインをゲットしたり、Tポイントカードがもらえる。こういうのが、楽しく健康増進につながる。ありがとうございます。

次に、『未来のヒトづくり』について話を進めていきたいと思います。『子どもや若者が地域と関わりながら、自分が地域に必要とされていると感じ、将来この圏域で自分らしい生き方を実現している』澁澤委員よりご意見をお願いします。

澁澤委員

お久しぶりです。こんなことになると思わなかった。考えてみれば、まさに定住自立圏の構想を後押しされたのかもしれないなと思っております。皆さんにお会いしない半年くらいの中に、グローバルからローカルへ急激なより戻しが世界中でおきたと思います。今後私たちが、社会のデザインするということでは、もう一度ローカルを見直す。ローカルと言っても、それぞれの町村だけではなかなか自立は難しいので、やっぱり他の町村とどうやって手を組んでいくか。かつては、漠然と仲良くしようだったのが、やっぱり生き残っていくための最大の方法だということの、ある意味では皆さん覚悟を決められたんじゃないかなと思います。

事業の背景を私の方からお話すると、1つは「未来のヒトづくり」。1つは定住、Iターン、Uターンの人たちを地域に受け入れて地域に新しい人たちを作っていくということが1つ。

それともう1つは、教育。地域内の子どもたち、或いは、もう少し年齢層の高い人たちも含めて、どういう風に地域の人たちに、地元へ愛着を持ってもらうか。この2つが、考える大きな柱です。

まず、定住の方は、ここの自然は美しいですよ、こんないい所ありますよ、或いは住居の補助金を出しますよという、政策を全国で取られているのですが、今一番重要なのは、そこに入ってきて『食っていけるか』ということが一番重要。そのためには、やはり、先回もお話しましたが、地域内で経済を太くしないと。要するに、定住する人たちが、大きいビジネスをして、そこに貢献していくということではないです。岡山県西粟倉村という人口1000人の定住を受け入れて、そして森の幼稚園をやったりして、非常に先進的な地域があるのです。若者が非常に入ってくる地域です。その成功事例として私に紹介されたのが、東京吉祥寺というところのパティシエのケーキの職人さんの一番弟子で綺麗な女の方です。その子が、西粟倉村に移住をしました。彼女は、ソーシャルネットワークを使って、1日に30個だけ1個限定1,500円の地元食材を使ったケーキを作ります。これが非常に話題になって、午前中にネットで売り切れる。地元の人はこのケーキは食べられません。彼女の生活は、基本的にはアマゾンで消費をします。田舎でもおしゃれな暮らしをされています。彼女は、こんな田舎でもおしゃれに暮らしていますよと紹介されるのですが、それが本当に私たちの目指してい

る定住なのか、地域活性化なのかと考えるのです。彼女は確かにお金をたくさん外から持ってきますけれども、彼女の消費はほとんど外に出ていってしまいます。彼女はおしゃれに暮らせるのかもしれないけれども、吉祥寺で暮らしても、それほど変わらないと思うのです。地域内でどれだけ経済を回していけるか、ぜひこれから真剣に考えていかないと、定住を増やしていくことにつながりません。決して地域内で、年収500万を求められているわけではなく、小さな稼ぎ、加工場でもいいし、ソーシャルネットワークでも通販でもいい、小さな稼ぎをどれだけ作れるか。稼ぎというのは、経済といいますが、ある意味コミュニケーション手段です。モノとお金を交換することによって地域内の人間関係を作っていくのが、スモールビジネスの1番基本的なことなので、そういうチャンスをどれだけ作っていけるか。とりあえず今回は、里山という一番身近にあって利用されていない自然資源を利用したものの中から稼ぎをどれだけ作れるかということでトライをしました。ただ、里山に限らず、全農地でも地域内の生産工場でも構わないのかもしれない。地域内で小さなビジネスをたくさん作って、その入ってきた人たちがそのいくつかを自分なりにチョイスをしながら暮らしを立てて、地域の子どもたちを育てていく形が、移住者定住者に対しては一番いい。

もう一つは教育です。この短期間で一番変わったのが教育かもしれません。それは、文科省が『GIGAスクール』を推奨して、小中学生のほとんどが、タブレットを持つ。感染症の関係で学校に通えなくなっているため、全員がタブレットを持つオンラインの教育に、急激に舵をきられた。今教育現場でどういうことが起きているのかというと、子どもたちをオンラインだけでは育たないということがわかってきました。確かに座学、教科書に書いてあることを先生が、子どもたちにわからせることは、オンラインで十分伝わるのですが、本来子どもたちが身につけなければいけない、やさしさ、人への思いやり、そういうような世の中で自立して生きていくためには、どうしても必要な要素というのが対面でないと伝わらない。当たり前のことと言ったら当たり前なのですが、そもそも、人間を3密でない状態にどう置くかという社会になるとマスコミは言っていますが、基本的に、人間というものは3密なんだ。ある程度のリスクは、マスクだとかフェイスガードだとか、手を洗うだとか防御しながら、3密の世界の中で育てていかないといけない。

それが非常に重要。それが学校だけでやることではなくて、3密をある程度避けるようなところに行かざるを得ないので、地域内で子どもたちをどう育てられるか、これから真剣に考えていかないといけない。地域の行事ですとか、人間関係に触れさせるということになる。それが、ひいては長い目で見れば、一度外に出てもまた帰ってくるか、地域内で仕事をするとか地域内で子どもを育てることにつながると考えています。グローバル社会で競争力をもって勝ち抜ける子どもたちを育てるんだというのは、それはそれでひとつの手かもしれませんが。岐阜市はそういうような教育をしようとしています。教育大綱を作られている。最初のところに、豊田市や岡崎市よりも全国学力検査で上の点数にしますと教育目標に書かれているくらい。そういう偏差値だとか、点数で評価するような教育を目指していくのか、そうじゃなくて、これからの時代、多様な時代にどう対応できるか、それはまさに地域で言う足を根に付けて、そして多様な子を育てるか、もう一度皆さんの中でどっちが正しいのかじゃなくて、決めなければいけないと思っています。先ほども言ったように、地域内循環経済を多くするか、定住ということから考えれば、いかに多様性を持って地域で足が根についた子を、グローバル社会で活躍する子が出るかもしれないが、やはり地域にとって、一度出てもまた戻ってくるような子どもたちを如何に育てるかというようなことに重点を置きたい。基本的には大人と接点を持てるような、そういうようなメニューを助言させていただきました。これは最初のきっかけであって、どうやって経済を回すかには、人の交流がない経済は回らないので、皆さんそれなりの町村の考える人事交流ですとか、いろんなイベントの共催ですとか、人と人をくっつけるような。確かに、3密を避けると言いつつ積極的に進めていただけるのかなと思っています。もう一つだけ。皆さんに考えていただきたいことが。株価最高値になったんですね。麻生さんの発言で、給付金は苦しい人を育てるために、支えるために一律10万円出したけど、統計を見てみると、ほとんど金融資本に変わっている。つまり、あれは効果がなかったと麻生さんが言った。やはり膨大な金融資本、リーマンの5倍くらいの金融資本がマーケットに投下され、完全に世界がバブル。このバブルは基本的には、給付金は未来の世代から借りただけ。それがどこかではじけると、世界のコロナが一段落すると、前のスペイン風邪がそうだったので

が、世界恐慌が避けられないと私は思っています。そういうときにやっぱり地域内経済を強くしておかないと、地域外に依存している田舎から先に切られちゃう。そこはぜひ皆さん、脅かすわけではありません。

加藤委員 ありがとうございます。SDGsの関係で計画を結びつけられていますが、ローカルSDGs＝地域内経済循環。澁澤さんがおっしゃったように、地域内経済循環を高めていこう、その担い手である教育を含め進めていかなければならないとお話いただいております。里山関係、里育事業の中で、美濃加茂市七宗町が進めております、3年晩茶の事業。井戸町長お話よろしいでしょうか。

七宗町長 ただいま、加藤さんが言われたように、定住事業のひとつを使って、3年晩茶でヒトづくり、耕作放棄地の解消を進めている。9月初めに、白川茶には申し訳ないが、組合があつて多くの茶園をやっていたが、高齢化、人材後継者不足で荒れ果てて行く中で、この3年晩茶で来ていただいて、地域の方々に予想以上に参加していただきました。これからやっていくには、大事なことだと言われました。本当は、きちんとした白川茶として出すのがよいが、茎から切って、葉も茎もお茶にする製法。そのときは、みなさん多くの方が来て必要なことと言いましたが、講演を聞いて、きちんとしたサイクルができて、販売、収入がないと長続きしない。まずは第一歩を始めたところです。補正で出ていたね。番茶にする機械。

七宗町職員 はい。

七宗町長 可茂森林組合。行政が主でやるのですが、どこかでだめになる可能性がある。バックアップはしておりますけれども、元となる人材、機械がなければならぬということでも可茂森林組合さんと一緒になってやっている。置く場所も森林組合がやってくれている。可茂森林組合の職員の人たちもかなり力を入れてやっていただいております。講演会に参加して思ったのが、しっかりとしたサイクルを作って、長続きしなければ全く意味がない。人材づくり、そのヒトづくりをしっかりとやっていかなければならない。トータルでヒトづくりは、定住自立圏の健康、公共交通、防災、外国人定住全て関わってくるのではないかと考えています。5つの分野をいかに、美濃加茂市、7町村が連携して取り組んでいくか、しっかりと取り組んで、課題と思っている。

加藤委員 ありがとうございます。白川町さんは、里山、地域の皆さんとの連携はい

かがでしょうか。

白川町長 里山の認識が少ない。昔はさっぱりしていた。里山より奥山のほうにありまして。その中で、進めていかなければならないのは、エネルギーの問題とっております。バイオマスがありますが、このエネルギーの機能が再生可能エネルギーを企業が使うことにより、企業の価値観が出てくる。将来、里山の活用によっては、企業との結びつきによって雇用もうまれる。そのような町づくりができたらいいなと思っています。教育基本というものは、先ほど先生がおっしゃったように、人生の最終目的であったり、教育基本法で謳ったように進めなければならない。利害関係の教育は心配です。日本全体で考えれば、大事なことです。そんな中で、子どもたちに澁澤栄一先生のように「夢七訓」を伝えたい。それがあって、事業の結びついていく人ができていく。まとまらなくてすみません。

加藤委員 委員の皆様、町村の皆様いかがですか。
つづきまして、公共交通。『便利で利用しやすい公共交通が身近にあることで、住民が移動する時に「公共交通」を使うことを考える地域となる』公共交通の先進的研究をなさっておられる松本委員をお願いします。

松本委員 はい。定住自立圏ということで、この圏域、複数の自治体が連携しながら、役割分担をされていくものと思いますが、自動車だけではなく公共交通で行き来できる環境を作っていくことは非常に重要だと思っています。そういう意味で重点事業の中に、公共交通網の整備が入ったのが非常に意義のある一歩だと思います。それから、管政権に代わってカーボンニュートラルの話もでてきておりますので、日本もいよいよ、ヨーロッパ並みに、自動車抑制ということが求められるのも間違いないと思います。そういう意味でも公共交通をしっかりと整備していかなければなりませんし、勿論、超高齢化社会におきましては、公共交通網は必要不可欠であるということですので、ぜひ一層となって皆さんで取り組んでいただければと思います。一方で、各自治体の温度差もあると思っておりますので、結果としてこういう形にまとまらざるを得ないということも理解しております。注文つけてもいいですか。

加藤委員 注文。はい、どうぞ。

松本委員 変えてくださいというわけではありません。こういう感じで実際取り組ん

てください、と言うことで、ご紹介してもらいたい。まず1点目の取り組み1で、維持確保ということですが、皆さんご存知の通りコロナ禍で、公共交通は大変厳しい状況です。したがって、根を上げるようなところもあり得るのではないかと思います。今で言いますと、各地方自治体の財政状況も厳しくなってくる。非常に厳しいと思っております。ですから、これを乗り越えないと、その次には地獄絵が待っている。ぜひ乗り越えていただきたいと思っております。国も支援体制を作ってくれと思っております。これを乗り越えてほしい。維持、確保お願いしたいと思っております。その際にいわゆる、公共交通の収益、補助が付くということで、金銭のところだけを着目されないでほしい。そのときには、公共交通がもたらす社会的便益って何があるのだろうとしっかりと見極めていただいて、やはりそこは残すべき判断をしていただければと思っております。見た目の補助金ではない、それ以上の便益があることを認識いただきたいと思っております。

それから2番目に、圏域の公共交通計画を策定いただけるという取り組みを書いていただけた。すごく期待しております。印象的に、令和5年目で、ちょっと遅いのではないかと心配しております。ただ、諸事業があつてということですのでやむを得ないと理解はしておりますが、時代に応じ、波が起これば早めていただくこともご検討いただければと思っております。それまでは、圏域ではなく、各自治体で、計画を作っていただきたいと思っております。ちょうど11月27日に地域公共交通活性化再生法が改正され、改正再生法が施行されます。公共交通計画策定が責務になり、各自治体が努力義務となり、責務ではなく、努力義務です。ごめんなさい。いずれにしても作らなければならない。各自治体さん、ぜひ策定していただきたい。圏域で作ってってもらいたい。そのためには、G T F S化。いわゆる、見える化。最近では皆さん、ネットを使います。ネットに載ってこない、誰でも当然というようなことで、お店もそうですよね。ネットに出てこないと見えてこない。ぜひ見える化を進めてもらいたい。その時に同時にお願いしたいのは、G T F Sで見える化だけではなくて、スマホの利用を考えますと、スマホが使えると、高校生中学生大学生が使えることになる。そして彼らは今や、スマホ決済をする。そこも同時に進めてほしい。決済はスマホでできるような時代はもうすぐそこまで来ています。その対応も、G T F S化とともにぜひお

願いたいと思っております。先ほど紹介がありましたアプリがあるとご紹介いただきました。公共交通と一緒にセットにするようなアプリもよい。川辺町のトレッキングコースもよい。そのトレッキングコースもアプリでいけるとおもしろいと思います。この地区は、外国人も非常に多いということで、外国人も公共交通が使えるのは必須ですので、多言語化を進めていただいて、さらにキャッシュレスも進めてもらえれば、外国人の方々にも気軽に使っていただけたと思います。ぜひそういうことを進めてもらいたい。利用促進ということでは、これまででもお願いしておりますが、G T F S 化だけではなくて、健康、観光との連携も進めていただいて、一緒に取り組んでももらいたい。最後に、もうちょっと攻めがほしかった。攻めという意味では、ラストマイルという問題だと思います。ラストマイルをいかに作り上げていくか。そこに技術、自動運転の活用はぜひ念頭に置くべきだと。美濃加茂市さんでは、実証実験を行うようなことをちらっと聞いておりますが、いろんなところでも自動運転を使った、ラストマイルをトライすればよかったのかなと思います。今回この事業に入っておりませんが、ぜひどこかで検討いただきたい。地域の方々にとっても明るい話題になるし、この地区に住み続けたいと思うてもらえるのではないかと思います。

加藤委員

ありがとうございました。公共交通ですと、財政の課題もあります。全体の意見の兼ね合いもあるかと思えます。また、先ほど横家町長もおっしゃいましたが、エネルギーをはじめとした収益型 MaaS の公共交通を回していくような流れがこの地域で進められていっています。実際、美濃加茂市も自動化、MaaS、伊藤市長いかがでしょうか。

美濃加茂市長

先生、ありがとうございます。今回、国交大臣から受賞することになりました。来週国交省へ行ってきます。先生がおっしゃったように国レベルで公共交通に対する思いというのはかなり集中的な投資をこれからすると言っていると聞いている。目に見えることをこれからどんどん研究していきたいと思っております。今回の受賞は先生のおかげと思っております。心からお礼申し上げます。今おっしゃったように、公共交通の投資目的を移動手段でも当然あるのですが、私たちとしては、健康のためと思っている。つまり、自分の足で歩いて停留所まで行って、バスに乗って、みんなと目的地へ行って、降りてそこからまた目的地へ行って、帰ってくる。この意識、意欲、自分の

足で歩けるとか、そういった健康のための投資であると思っている。こういう投資が、将来的な医療費削減に必ず伝わるとしている。勝手なことをいってはいかんですけれども、科学的な実証データも見せながら、今公共交通に投資すべきなんだと考えていきたいと思っています。それと、まだまだ近い距離ですけれども、美濃太田駅からの自動化運転を考えていきたい。この前トヨタさんと少しお話をさせていただいたんですけれども、やはり完全に自動化していくのか、ハイブリットな自動化か、右折は人間が、左折は自動で、距離感とか。すべてを無人化することはハードルが高いし、問題があるので、補佐的な自動化をチャレンジしてみたらどうか。そんなような話もお聞きしましたので、やれることから順番にやっていきたい。それから、次が、先ほども加藤さんがおっしゃったようにMaaSの形をやっていきたい。サービスをいかに里山の一番、先ほどのラストマイルの話もありましたけれども、そこへ届けていくか。特に、医療とか食料とかいろんなサービスを、公共交通を使って届ける。これをやっていきたいと思っております。

加藤委員 ありがとうございます。前回、富加町長さんも公共交通についてお話されておりましたが。

富加町長 公共交通をやっていないのは圏域内でうちだけ。4 km四方の小さな町ですので、今まで美濃加茂市のバスの乗り入れをお願いして、1年半ほどやったが、当初1か月の無料のときにはそれなりにありましたけれども、それ以降はないということで、ほぼ1年くらいですぐやめようとなった。それから、年数もたって、そんなわけにはいかないといろんな要望等もあり、やめた時にその代替案としてタクシーチケットでちょっとハードルを下げてやりました。変わってきて、皆さんが言われるようなことで、何らかの形でやらなければならないだろうということと、今市長がおっしゃられたように、健康に有益があると言われましたけれども、小さな町で農業依存の町で、高齢者で元気な人も多くて、健康の面については、それこそ自転車で野菜を積んで特産物市場へ持って行ったり、車に乗れる人は軽トラでいろいろ来てやられるということで、特産の市場の活性化ができてくる。そのために、高齢者は元気にやってこられる。今の話であったように、公共交通というと、ほぼ高齢者に限定したような形で考えておったのですが、先生の「学生さんにも利用できるような形で」と、そういう多角的な形でできたらいいなと思っ

ているのです。小さな町ですので、やりようによってはうまくいくなと思います。今までも断ってきたわけではありません。ずっと検討して、外界からも「どうしてやらないのか」と指摘を受け、「検討中です」ときて、今回は計画を含めやっていかなければならないと思っています。以上です。

加藤委員

ありがとうございます。今回は、防災はいらっしゃらないわけでございまして、このような計画で進めていくような形です。

外国人の定住につきまして、こういった形のズームでご参加いただきます。クリスさん。『外国人住民と日本人が互いを認め合うことで、外国人住民がこの地域に愛着を持ち、この地域の一員として活躍している』ということで、熱い意見をお持ちのクリスさん。実際のお話をしていただければと思います。ご意見どうぞよろしくお願い致します。

クリス委員

よろしく申し上げます。ベーシックなんですけれど、外国人が災害で困らないようになるためには、ライフで必要な、翻訳、通訳、日本の文化の勉強を美濃加茂市のノウハウを使い、富加町、川辺町が参加しますね、富加町、川辺町については、まず外国人のニーズを調査してもらおう。日本語教育については、坂祝町と七宗町も参加するというので、ぜひがんばってほしいと思います。あとは、先ほどの防災、公共交通についても、この辺に住んでいる外国人のことも考え、ビジョンをほしいと思います。先ほども言った5件のビジョン、基本的にはいいと思うのですが、ベーシックなことですよ。もっと外国人が美濃加茂に住みたいと思うためには、その外国人が例えば、美濃加茂に住む価値がほしい、楽しめるコミュニティづくりとか、イベントが必要だと思います。あとは、外国人の教育だけではなく、日本人への教育も必要だと思います。例えば、外国人とのコミュニケーションとか、このエリアに住んでいる人たちの国の文化とか、そういうことについて勉強してほしいと思います。そうするとお互いが理解できる、そうすると、いいビジョンができると思います。前にも言いましたが、日本が、この外国人に加わってほしいのではなく、何回も言いますが、日本の国の文化、日本の歴史、日本ライフスタイルを守ってしてほしいから。なので、外国人が日本語を守る、日本のライフスタイル、日本語の勉強できる、日本をリスペクトできるようなプロジェクトも必要だと思います。以上です、ありがとうございました。

加藤委員

ありがとうございました。クリスさんは、日本文化、歴史に詳しく、ご自身

が取り組まれておりますので、すごく大事な情報と思います。今回、のぞみ教室とかいろいろ取り組みが予定されておりますので、この中では、のぞみ教室に連携される坂祝町さん、ご意見頂戴してよろしいでしょうか。

坂祝町長

坂祝町の人口の8%の外国籍の人がいるということで、生活面やいろいろな問題は、母国語のチラシ等で解決されてきて以前より改善されてきている。一番思っておりますのは、のぞみ教室は、美濃加茂市の教室で定員いっぱいだと、そういう一つの課題がある中で、坂祝町は何とか自立してでも定住自立圏の事業でのっかかって、自立して坂祝教室が開けたらと思いをもっております。実現できるか、いろいろ検討している最中です。やはり外国籍の児童生徒の方が、途中で転入されてきたりしますと、やはり基礎学力が付かないために、高校受験に非常に苦慮していると、そういう問題もありますので、やはり高校入試の壁を乗り越えて、将来地元で働いていただけるような、そういう運びにしていきたいなと考えております。余談ですけど、昨年、坂祝町の中日本自動車短期大学の学生が、すごく東南アジアの関係から在学している。弁論大会がありまして、そこに審査員に來いということで行ってきたのですが、日本語がとっても上手で、また日本の文化を理解しながら力強く生きている姿を見て感動した。ますますこれからもそういう交流をしながら、坂祝町の、学生さんは、名古屋市のアルバイトの時給が高いので、名古屋から通っている方も実際にいるらしいのですが、やはり地元の辺でアルバイトしながらでも生活していけるような体制を作っていくと、ますます、連携がはかっているのではないかと思いますので余分に加えさせてもらいました。すみません。

加藤委員

ありがとうございました。

先日、清流里山公園にマリオットのホテルができて、あちらの方に、清掃スタッフさんとして、アルバイトで、加茂高校定時制外国人居住者の方をご紹介させていただいて、アルバイトの形で入らせていただいた。それはすごく活躍してくださっている。工場以外にも違う働き先があるんだなと感じました。クリスさんがおっしゃっていたように、外国人に対する理解も非常に大事だなというふうに思っております。クリスさんありがとうございました。

クリス委員

ありがとうございました。

加藤委員 ありがとうございます。全体として、各事業でお声かけができなかった市長、町長さんにご意見を頂戴したいなと思います。今日きていらっしゃる坂祝町長、八百津町長さんからも一言頂戴したいと思います。あ、今お話ししていただきましたね。

八百津町長 おっしゃっていることが聞き取れないのですが。

加藤委員 声が聞こえづらいですね、申し訳ございません。全体で、ご意見頂戴できたらとも思いますので、八百津町長さん。

八百津町長 特に意見はございませんが、委員の先生方のお話を聞かせていただいて、八百津町は人道の町ということで、人道教育。それに新しく、GIGAスクールで全員を名古屋に行く計画している。タブレットと合わせて、子どもたちを人道教育、育ててく。人の交流なくては、経済は成り立たないと先生おっしゃっていました、まさにその通りでございます、八百津町は、澁澤先生のおっしゃったとおり、しっかりやっっていこうと考えている。以上です。

加藤委員 ありがとうございます。首長・ビジョン懇談会委員意見交換会をこれにて終わりにさせていただきたいと思います。

村井 それでは短い時間となりましたが、意見交換をありがとうございました。閉会の挨拶を事務局美濃加茂市市民協働部山田より申し上げさせていただきます。

10:55～ 閉会あいさつ（美濃加茂市市民協働部長）

山田部長 長時間、ありがとうございました。持続可能なこの圏域を創り上げていくために、私たちは、1次2次ビジョンを行いまして、3次として、足腰の土台となる部分を、5つの事業を上げさせていただきました。今日改めて、5つの事業がばらばらではなく、どこかでもって絡み合いながら相乗効果をだしていけるんだというような方向性も教えていただきました。来年4月から新しい事業展開が始まるわけですが、今日の意見を踏まえまして、さらに事業内容を詰めていきながら進めていきたいと思っております。これから5年間こういう事業をさらにブラッシュアップしながら進めていきたいと思っておりますが、ビジョン懇の委員の皆様方には、これまで以上に熱い

ご指導、助言を賜りたく思っておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。本日はありがとうございました。